社説

倉吉・打吹公園の桜

市民の手で再生を

桜の名所、倉吉市・打吹公園の桜が元気をなくしている。ことしも十分に花をつけないまま、花見シーズンを終えた木もあった。専門家は「抜本的対策を立てないと再生は難しい」と警鐘を鳴らす。かつて「山陰一」と称され、倉吉市民の誇りと憩いの場である同公園の桜は、なぜ元気を失ったのだろうか。

先日、打吹公園内の歴史的建造物・飛竜閣を会場に小規模だが、注目すべき会合が開かれた。地元NPO法人の例会。テーマは「打吹公園の桜について考える」。講師は、鳥取県生物学会会員、森本満喜夫さん(七五)。会員、市民約三十人が熱心に聴いた。

都市近郊には珍しい公園

打吹公園は、倉吉市の中心市街地にある三十七㌶の自然公園。一九〇四(明治三十七)年、皇太子(大正天皇)行啓を記念し、打吹山(標高二〇八㍍)の北側山腹を開いて造成された。山陰道屈指の公園を誇り、飛竜閣は皇太子宿舎だった。公園内には数千本の桜(ソメイヨシノ)、ツツジ、モミジが植えられている。都市近郊には珍しい原生林の様相を示し、スダジイやツバキの群生も見られる。「日本都市公園百選」「森林浴の森日本百選」「さくらの名所百選」にも選ばれている。

わかとり国体(一九八五年)ごろには観光客は「年間三十万人」(鳥取県大百科事典)を数えたが、近年、ソメイヨシノ独特の豪華絢爛、繚乱の見事な美しさが見られなくなった。市が樹木医による治療など再生の努力もしてきたが、効果が出ず、危機感を持つ市民は多い。

日陰に弱いソメイヨシノ

それによると、ソメイヨシノは、太陽の光をいっぱい浴びる日なたを好み、日陰では育たない性質を持つ。打吹公園は、他種類の樹木が生い茂る自然豊かな優れた環境にあるが、ソメイヨシノにとっては光が十分に当たらない悪い環境となる。

森本さんは「打吹公園はそもそも北向きに位置し、日当たりが悪い。それでも公園造成時は、周辺の木をかなり切り、日当たりを良くしていた。そのために桜もツツジもモミジも楽しめたが、長年の間に他の木が茂り、日が当たらない環境に変化した。桜の花が美しくない傾向は二十年ぐらいから始まった。若い木を植えても育たない」と断言する。

森本さんは、再生策として①公園内の他の木を切って、日が当たりやすいようにする②日陰でも強い「ヤマザクラ」種に植え替える③公園内を桜、ツツジ、モミジに区割りし、整備し直す―の三案を示した。講演を聴いた市民は「近年、桜の元気がない。その原因がやっと分かった」と〝目からウロコ…〟状態であった。

桜が元気をなくした訳が初めて究明された。県中部の植物の生態に詳しい専門家の分析だけに、傾聴に値する。まず多くの市民が、この「真の原因」について共通認識し、そのうえで再生への議論を始めよう。処方せんも示された。百年以上にわたって、市民に愛されてきた打吹公園の桜。感謝の心をつなぎ、再生へ動き出そう。